

P	語句	東洋医学概論	作成：りんご鍼灸院 再配布は禁止しています
115	切診	脈診	切経
	脈状診	寸	尺
	平脈	一呼吸に四回か五回。特に目立った点がない脈	
	祖脈	浮：軽く押し拍動指に触れる。空虚ではない(表虚)	沈：重く押し得られる脈(裏実・裏虚)
	季節の脈	春：肝弦 弾力に富む(痰飲・湿証)	夏：心洪 長夏：脾代・緩不正脈 臟気の衰退・痛証
	八要の脈	浮沈で表裏	遅早で寒熱
	七表の脈	浮脈、芤脈、滑脈、実脈、弦脈、緊脈、洪脈 (元気があって早い)	
	八裏の脈	沈脈、緩脈、瀋脈、濡脈、遲脈、伏脈、微脈、弱脈 (元気がなく弱弱しい)	
	九道の脈	長脈、短脈、細脈、虚脈、動脈、牢脈、結脈、促脈、代脈(ちょっとヘン)	
	七死脈	雀啄脈、屋漏脈、彈石脈、解索脈、魚翔脈、蝦遊脈、釜沸脈(死期近い)	
	117	三部九候診	「素問」：天・地・人、頭・手・足を比較。浅側頭動脈(ガン殿)、顔面動脈(巨髒・大
118	人迎脈口診	「靈枢」	
119	六部定位脈	「難行」臟腑の異常を見る 経絡の異常を見る	
	中脈	「胃気の脈」六部定位脈診の中の部位の脈。中脈がしっかりしていれば胃の気が整っていて生命力がある	
121	心下痞鞭	心下痞：心下部の自覚的つかえ。心下鞭：他覚的に硬く抵抗感あるもの	
	胸脇苦満	季肋下部に充満感。漢方：小紫胡湯 (肝・胆の病証)	
	小腹痛	脐下不二。下腹部に力なく、知覚鈍磨のあるもの。漢方：八味丸[腎の病証]	
	小腹痛急結	少腹痛急結。左下腹部に抵抗や硬結。[瘀血] 桃核承気湯[腎肝脾]	
	裏急	腹裏拘急。腹直筋の異常なつっぱり。虚勞に見られる。[肝脾腎]	
122	虚里の動	胃の大絡の別名。心尖拍動。目で見てあるが如く、なきが如く。	
123	切経	肘関節以遠の前腕部や下腿部を対象。(全身には行わない)	
	撮診(擦診)	母指頭と次指頭or次指で経絡上の皮膚をつまみ痛み・抵抗の有無を見る	
	背診(候背)	背部は内臓の病変が現れやすい。皮膚の色や艶、産毛、ほくろも見る。	
	圧診	皮膚や筋肉を押圧した場合に激しい痛み、逃避行動に出るような場合の押圧点を圧痛点という。靈枢に「痛を以って輪となす」とある。押しやすい虚痛(喜按)、痛みが増す場合実痛(拒按)	
	硬結	皮下or筋肉の中に指で按压すると触れるコリコリした固まり様のもの。圧痛を伴うことが多い。	
	陷下	押圧すると力なく落ち込む。虚。靈枢に「陷下なれば之に灸す」とある。	
124	細絡	皮下静脈のふくれたもの。細静脈がボーフラ状に変化したもの。瘀血	
124	湯液の証	湯液、特に古方派の証は治療と直結。「葛根湯の証 = 頭痛、発熱、悪寒、後背強で発汗ない」 病人の症状と有機的関連性ある症候群を捉える概念。	
125	本証と標証	本証：正気 病因の邪気 先病 臟腑 四肢の経絡体幹 体内の症状	邪気：標 病状 後病 経絡 頭部の経絡 体表の症状
126	標本同治	標と本の療法を同時に考慮しながら治す。(標本同じに治す)	
	急則治標、 主証と客証	緩則治本(急なれば標を治し、緩なれば本を治す) 主証とは病の発病からその症状が引き続き変わらないもの、客証とは時によって出没する症状・証。二つの証があった場合は主証・客証で弁別。	
	128	整体観念	自然の変化に応じた動きを人体がすることから、人と自然は統一体であることをいう。体内は強調しながら有機的統一体として機能している
129	八綱弁証	寒熱：熱証or寒証or寒熱挟雑・・・病性(病情) 虚実：虚証(正気が虚)or実証(邪気盛ん)・・・病勢(邪正闘争の状態) 裏表：表証or裏証or半表半裏証・・・病位(病気の深浅) 陰陽は八綱を総括した概念。	
134	養生法	天地自然の運行に適した生活をする 恬愉(心にわだかまりなし)	
138	九鍼	破：ざん鍼、鋒鍼、鈹鍼/刺：毫鍼、えん利鍼、長鍼、大鍼/接：えん鍼、鍔鍼	